

論壇

取って代わられる仕事

AI（人工知能）の進歩のスピードにはすさまじいものがある。例えば、スマホで利用できる 구글翻訳は日々進化している。試した人も多いと思うが、いずれ通訳も翻訳もいらなくなる時代がきそうだ。この翻訳を支えているのが AI であり、猛烈な量の文章を読み込み、最適な翻訳を統計処理している。

このような AI の進化とその利用があちこちの分野で進んでいけば、いま人間のやっている仕事も AI に取られてしまう。銀行などでは近い将来、相当の数の人の仕事が AI などと奪われると言われ

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

AI とそれを使いこなす能力

銀行だけでなく、AI に取って代わられる職種は多くある。問題は、今の子供たちや若い人の持っている能力の問題である。AI が発達しても、それを使いこなして仕事ができるのであれば問題は無いが、AI が得意な能力しか持っていない子供が増えているという指摘もある。新井紀子氏の

『AI VS. 教科書が読めない子どもたち』という書籍が話題になっているが、今の子供たちは AI に簡単にやられてしまうような能力しか持たないと指摘している。この欄でも私に触れたが、歴史の年号や事実を記憶したり、漢字の読み書きを覚えたりするような勉強ばかりやっていると、AI に取

って代わられる。人間にしかできないような能力、例えば表現力を高めるとか、歴史観を磨くとか、あるいは優れた芸術的感性を磨くことが求められるはずだ。今の教育の内容は、AI がない時代の社会環境を前提として作られたものである。AI が利用できるか否かにかかわらず、いつの時

代にも必要な教育内容もあるだろう。しかし、AI が進化すれば、教育内容を変えていかななくてはならない部分も多いはずだ。AI の進歩のスピードがあまりにも速いので、教育内容の変化のスピードが追いついていない状況だ。新井氏の書籍は、こうした現状に警鐘を鳴らしている。

教育現場に積極導入を

教育現場に積極的に AI を導入すればよい。例えば、AI の翻訳機能を英語の授業に導入すれば、今の英語の教育は破壊されるかもしれない。しかし、AI の助けを借りながら、海外の人とどのようにコミュニケーションをするのか、ということが本来の英語利用における IA のはずだ。歴史教育でも年号や人名を丸暗記するのでなく、ネットの検索を自由に利用させて事実を調べさせて、その上で歴史について理解を深める能力を高めることが必要である。教育現場に AI を導入するには勇気がいることかもしれないが、人間が本来持つべき能力を見極め、それを磨くためにも、そうした試みが求められる。「教科書が読めない子どもたち」を育ててはいけないのだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。